

# 11月例会は「明りを灯す人」

## 例会候補作品をお伝えください

例会作品の選定について、以前は半年に一度、例会作品選定会議を兼ねた運営委員会で、半年から1年先の3作品を選んでいました。その後、会議の参加者が自信を持って推薦したり、十分に納得できる資料が揃わなかったりすることもあり、一度に3作品を選べない状況が続き、現在は、運営委員会のたびに推薦作品を出し合って半年先の作品1本を決めています。

運営委員会に参加している人も5名から10名程度で、全員が実際に作品を観て選んでいるわけではなく、観た人の強い推薦や、他の上映会で好評であったという情報によって選んでいることが多いのです。

最近では、ヨーロッパを中心に興味のある作品が多いようなのですが、日本やアジアの作品について少し寂しい感じです。

会員の皆さんの中で、おススメの作品がありましたら、ファックス、メール、例会会場でのアンケートなどでお知らせいただきますようお願いいたします。

### 例会のお知らせ

■名称／第63回例会『明りを灯す人』

■日時／11月20日(火) ①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～。



■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■会員の受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

### 【例会作品データ】

■タイトル／明りを灯す人

(原題／SVET-AKE、英語題／The Light Thief)

■監督・脚本／アクタン・アリム・クバト

■出演／アクタン・アリム・クバト、タアライカン・アバソバ、アスカト・スライマノフ、アサン・アマノフ、スタンベク・トイチュバエフ

■データ／2010年、キルギス・フランス・ドイツ・イタリア・オランダ合作、80分、ドラマ／ヒューマン

■作品紹介／心にも明りを-名もなき電気工の物語

天山山脈のふもと、聖なるイシク・クル湖のほとりのキルギスの小さな村。手作りなのか決して立派とはいえない風車を男が手入れをしている。村人たちは彼のことを“明り屋さん”と呼ぶ。明り屋さんは、アンテナの調節や電気の修理など、どんな些細な用事でも自転車でかけつける。時には、裕福ではない家に無料で電気を使えるよう細工したりもする。村人たちの暮らしを第一に考え、みんなからも愛される純朴な男だ。そんな明り屋さんの夢は、風車をいっぱい作って村中の電力を賄うことと、息子を授かること。そんな中、ラジオから政治的混乱のニュースが流れ、私腹を肥やそうと都会から価値観の違う者がやってくる。穏やかな時間が流れる田舎の村にも変化が起きようとしていた…。(ホームページ解説から)

### 「山田洋次の軌跡」の南座へ行ってきました！

10:15 開館

11:00 1回目上映

「男はつらいよ、寅次郎 紙風船」

15:00 トークショー

「いしだあゆみ」

16:00 2回目上映 リクエスト作品 の日程。



日曜日とトークショーがいしだあゆみさんということか、朝から多くのお客さんで会場はいっぱいでした。

映画「寅次郎 紙風船」を見終わって昼食は南座の外に出てお食事処で京都を満喫し、南座に戻って舞台上に復元している“くるまや”のセットでお茶とおたべのふるまいを受け、映画の世界「とらや」を肌で感じてきました。

その後、前回見逃していたパネル、もう一度見てみたい所の展示物を見学し、そんなこんなしていると会場が慌ただしくなってきました。いしだあゆみさんのトークショーの始まる時間です。ステージに向かうともう満席です。そんな中、花道を歩いてきました。何と美しい女優さんかと！

トークでは、「男はつらいよ あじさいの恋」の撮影の時、山田洋次監督から演技をしないで表現する様に言われ、「何回も何回もNGを出したこと。もうだめかなと思ったこともありました」また、「子供を寝かすシーンでスカートの長さの位置を何回も撮り直したこと。寅さんと別れる港のシーンではカメラが遠く、表現が大変でした。」「最近の映画では「お菓子放浪記」のおばあちゃん役をしました。ぜひ見てください」とも。

2回目リクエスト上映は、マドンナイしだあゆみさんが出演している「男はつらいよ あじさいの恋」でした。トークの後なので「見なくては—」という気持ちになりました。

映画を見ていると いしだあゆみさんの話が思い出され、寅さんと港で別れて船が遠ざかるシーンはしっとりする映像だな—と思いました。

山田洋次監督が作る「寅さん」映画は、何を見ても何度見てもいいな～！（山本芳明）



### 前回例会の報告

9月14日の例会では、アフリカ大陸ケニアを舞台にした『おじいさんと草原の小学校』を鑑賞しました。

政府がついに無償教育制度をスタートした2003年のケニアの田舎の小学校で、老人が6歳の子供たちに交じり、初めて学ぶことの楽しさを体験する。

イギリスからの独立戦争の戦士として闘い、愛する妻子や仲間を目の前で虐殺され、強制収容所で拷問にかけられた過去を持つ主人公マルゲが、過去に

打ち勝ち未来を変えるため、マルゲは勉強を続ける。その情熱は、歴史を知らない幼い級友たち、そして政府までも動かしていった。

終了後のアンケートの感想欄記入数も多く、主人公マルゲの生き方への感動とともに、脚本、演出、演技に対する評価がたいへん高く、「今までで一番記憶に残る良い作品だった」「(主人公の生き方を観て)自分もしっかり生きていきたいと思った」「人間の強さと恐さを感じた」「教育の大切さを思った」など。

みんなが口を揃えて良い作品と評する感動作、ストーリーも俳優も素晴らしかった。

参加者数 133 人。

### 今思うこと一年末年始は映画館に行こう—

最近、どうも変である。映画を観に行くことが無くなってしまった。観たい映画がないわけでもないし、特別に忙しい訳でもない。9月中頃からは、結構バラエティに富んだ作品が上映されていると思っっているし、ワーナーマイカルや三ノ宮や元町の映画館の近くには、それなりに行っている。

理由をあれこれ考えてみると、インターネットの動画サイトを観る回数と時間がかなり増えたからという結論になった。観たい場面以外は、スキップしたりだらだらと観たり聞いたりしている。どうもだらけてしまうし、感動することも少ない。こんなつまらないことから、そろそろ足を洗わねば、と思う。

スマートフォンの普及は、このような環境に拍車をかけてしまうのではないかと、余計なことを考えたりもしている。

映画館や劇場に足を運んで、特別の空間で映像に浸る。おいしいお酒や料理を楽しむように。気持ちのリハビリのためにも。

前売り券を買ってしまっ、3か月で10本くらいの映画を楽しもうと企んでいる。（ハインリッヒ）

### ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200～300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL [cinemaclub@nifty.com](mailto:cinemaclub@nifty.com)

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 185 人 (9月14日現在)